

決算審査特別委員会視察報告書

【令和4年10月14日】

視察日 令和4年10月11日(火)

視察地及び班編成

第1班

- ・視察地 小石川福祉作業所(生活介護事業)／大塚小学校(増築工事)
- ・班長 宮崎 こうき 委員、のぐち けんたろう 副委員長
- ・班員 名取 颯一 委員、萬立 幹夫 委員、田中 香澄 委員、松下 純子 委員、西村 修 委員

第2班

- ・視察地 区道第869号(コミュニティ道路整備)
／旧国家公務員研修センター跡地(柳町育成室・柳町第二育成室)
- ・班長 浅川 のぼる 委員、小林 れい子 委員
- ・班員 市村 やすとし 委員、浅田 保雄 委員、上田 ゆきこ 委員、高山 泰三 委員、

第3班

- ・視察地 旧国家公務員研修センター跡地(小石川ここわ保育園)
／高齢者あんしん相談センター本富士
- ・班長 松平 雄一郎 委員、宮野 ゆみこ 委員
- ・班員 山田 ひろこ 委員、松丸 昌史 委員、関川 けさ子 委員長、山本 一仁 副議長

視察報告内容

第1班

1 小石川福祉作業所(生活介護事業)

令和3年度より生活介護事業が始まった小石川福祉作業所を視察した。

生活介護の方は、現在15人定員で12人登録している。年齢層は、18歳～50歳代までの方がおり、9時～16時までを作業所で過ごしている。先月静岡県の子ども園で起きた事件を受け、送迎バスの確認も徹底している。

重症心身障害児等の卒業後の進路先として、生活介護事業所(福祉作業所)があることは重要だ。そのために、シャワー室の整備を要請されていることは評価する。障害の度合いが二極化する傾向があり、また重度の利用者が増えているだけに、福祉作業所を選択する方のためにも重い障害の方が生活しやすいように改善してもらいたい。

また、福祉作業所側が就労継続支援の方達と、生活介護の方達とを臨機応変に対応していることは確認できたが、就労継続支援の方達と生活介護の方達とで行う作業・役割などの明確なすみ分けをしていくことが必要であるとも感じた。

受注が入っていない時は、エコに関する作業をするなど取組にもしっかりと工夫がされており、区の封筒の点字刻印作業などを積極的に受注している点も確認ができてよかったが、同時に区ができることはまだ色々あるのではないかと感じた。

今後も作業所が事業拡大を目指すために、区が後押ししていただきたい。

2 大塚小学校（増築工事）

令和3年度に増築工事が完了した大塚小学校を視察した。

令和3年2月下旬～令和4年3月まで、5億819万円をかけて行われたこの増築工事は、既存の校舎との接続の違和感、日影規制やプライバシーの問題などの課題をクリアし、併せて既存校舎の既存不適格も改修された。

新設された育成室は、元の育成室の1.5倍の規模、畳の枚数も2倍になり、快適となった。

手をかざせば自動で水が出るようになった洗面台、校庭の人工芝の再整備、屋上緑化、体育館や特別教室など学校全体をLED化したことによる電気容量の確保、増設されたエレベーターは給食リフトの役割も担う点、増築に伴うバリアフリー化など、機能的利便性と整備効果の高い増築工事が行われたことを確認した。

増築と併せて整備された防災倉庫に関しては、場所が細い路地を通った奥側にあるため、現実を使う時の搬入の際等に不安が残ること、倉庫の建っている場所に大きな段差があり、危険性が拭えない点は改善が必要だと感じた。また、深夜でも開ける状況を考慮し、防災倉庫周辺の照明機能をしっかり整え、使用する際の安全性の確保に努めていただきたい。

第2班

1 区道第869号（コミュニティ道路整備）

コミュニティ道路整備工事（区道第869号）を視察した。この計画は平成27年3月に策定された向丘・弥生・根津・千駄木地区のコミュニティ・ゾーン整備計画に基づくもので、整備工事を行った場所は令和3年度に完成した道路延長247.7mで、日医大から駒込学園前に向かう区道である。さらに、令和4年度はこの先の駒込学園前まで道路延長195.4mが施工され、完成している。

この道路は汐見小学校の通学路であるが、車道幅員が一定ではなく路肩内に電柱等もあり、十分な歩行空間が確保されていない。また、車両や歩行者の交通量も多く、特に自転車の通行についても考慮が必要であった。そこで、整備の基本方針を歩行者が安全に通行でき、誰もが安心して利用でき、歩くことが楽しくなる（①安全、②安心、③楽しい）とした。

主な整備内容は、車道幅員2.1～3.5mを2.5mに統一し、路側帯幅員を1.5mから1.75mに拡幅した。そして、路側帯をグリーン、交差点をレンガ色にカラー舗装をして明確化を図った。また、コミュニティ・ゾーンの路面標示や亀マーク等の標識を設置し、舗装は密粒舗装から透水性舗装とした。さらに、雨水枡に浸透枡を使用しているところもあった。

全体として、方針通りの道路整備がなされたことを確認した。整備工事の効果としては、車道幅員縮小による車両の速度抑制、路側帯の明確化による歩行空間の確保・車両侵入防止、路面の水溜り解消を期待するとともに、今後も、計画されている道路整備を、地域の声を反映し順次進められたい。

2 旧国家公務員研修センター跡地（柳町育成室・柳町第二育成室）

今年4月に旧国家公務員研修センター跡地に仮移転した、柳町育成室・柳町第二育成室（主に小石川ここわ保育園の2階部分）を視察した。

区が取得した国家公務員研修センター跡地の土地を、株式会社ディアログに貸与し、私立認可保育所および育成室を整備した。そのうち育成室について、柳町小学校改築工事中の柳町育成室・柳町第二育成室の移転先として借り受けた形で、公営での運営が継続されている。改築工事終了後は柳町小学校内に戻る予定で、戻った後の育成室跡地には、公設民営育成室として新規開設が予定

されている。

柳町育成室（主に礪川小の児童）・柳町第二育成室（主に柳町小の児童）ともに、40名定員のところ現在48名の児童が在籍しているが、平日の利用児童数はおおむね40名程度とのこと。また、育成室2部屋の間にある開閉式の間仕切りを開けることで、父母会等の開催時にはホールとして利用できる。キッチンや倉庫などの設備も充実し、ドアの指挟み防止やコロナ感染症対策としてのおもちゃの消毒など、安全対策にも気を配っている。

配慮を必要とする児童について、柳町育成室には9名、柳町第二育成室には7名が在籍し、同様に入室し、一緒に生活している。育成室内に、クールダウンのための静養室や多目的トイレなども設置してあることを確認した。

近年増加している育成室の待機児対策のため、育成室の新規開設に力を入れていることを評価するが、特別支援教室に登録する児童数の増加とともに、区内全域で配慮の必要な児童の育成室への入室児童数も増加しているため、今後は育成室の増設だけではなく、さらに環境をととのえとともに、障害児放課後等デイサービス等の増設ものぞまれる。

第3班

1 旧国家公務員研修センター跡地（小石川ここわ保育園）

旧国家公務員研修センター跡地に、令和4年4月に開園された認可保育所「小石川ここわ保育園」を視察した。同施設は3階建ての1階と2階を保育園として活用し、0歳から5歳児まで合計100名の定員、初年度である令和4年は待機児対策として1歳児の定期利用保育も行っており、園庭に加え、遊戯室やリラクゼーションルーム、図書室も兼ね備えた区内最大規模の保育施設である。365㎡の広い園庭には、安全面に配慮された固定遊具などが適切に配置されており、子どもたちがのびのびと過ごす様子を見学する事ができた。また、園庭は在園児だけの利用に限らず、近隣の保育園へも夏期のプール利用を開放しており、今後は園庭の開放を進めていく予定となっている点は高く評価できる。

保護者との連絡手段は、共通のアプリを活用し、登園と降園の管理や、園から保護者へのお便りなど、一部紙での運用は残っているもののICT化も進んでいる。またお昼寝用ベッド「コット」の導入や、給食時の丁寧なアレルギー対応など、常に事業者側が最適な保育サービスを研究・検討している姿勢を見る事ができた。

さらなる防音対策や園庭の使用時間の工夫など、引き続き丁寧な説明や対応を行って頂き、より地域に愛される保育施設となるよう努めていただきたい。

2 高齢者あんしん相談センター本富士

区が医療法人社団龍岡会へ運營業務委託している高齢者あんしん相談センター本富士を視察した。本センターは、機能強化のため、従前に設置されていた龍岡介護老人保健施設内から、令和3年7月に本郷3丁目交差点のかねやすビル7階へ移転したものである。圏域内の人口は49,476人で、圏域内高齢者数は9,472人、高齢化率19.1%で、要支援者・要介護者の人数は1,861人である。

アクセスが良好になったことで区民の利便性が向上し、来所割合は移転前の8%から13%に増加した。また、移転前は手狭であった面積も一定確保され、プライバシーに配慮した相談室及び相談カウンターが設置されたとともに、執務スペースが改善されたことを確認した。

本室は7人、分室は6人の職員で業務にあたっているが、高齢者の生活相談をワンストップで受け付けており、視察中も鳴りやまない電話相談に1～2人の職員で対応する状態であったほか、月に約300人の介護予防のケアマネジメントをしていることなどから、今後も適正な人員の配置が求められる。また、介護人材不足解消に向けた区の取り組みをさらに強化することが必要である。ビル1階に設置されている看板は改善を図り、本センターの認知度向上につなげられたい。